



ドクター板東の メディカルリサーチ Vol. 105

～洞窟の 心をつなぎ フラメンコ～

<http://pianomed-mr.jp/>

スペインにあるアルタミラといえれば、あなたは思い出すだろうか？あの牛の絵が描かれた有名な洞窟である。

私は以前から興味があった。というのは、旧石器時代に、牛やイノシシなどの壁画が描かれ、これが人類における芸術や美術の証明と考えられるからだ。

今回は、スペインを訪れて芸術に関わるスポットを垣間見たので、簡単に触れてみたいと思う。

アルタミラ洞窟

アルタミラ洞窟は以前に「世界遺産」として単独登録されたが、その後、2008年に、17箇所が追加されて拡大登録され、「アルタミラ洞窟とスペイン北部の旧石器洞窟美術」と改称されている（図1、2）。



図2



図4



図6

ただし、この洞窟は公開されてしまうと、実際に足を踏み入れることはできない、代わりに、洞穴をそのまま再現したレプリカが、スペインの首都・マドリードにある国立考古学博物館（図3）にある。

国立考古学博物館

私は国際学などで世界の各都市を訪れた際、必ず博物館に足を踏み入れる。各國の歴史や経緯の重要なポイントをすぐに把握できるからだ。



図1



図3

早速、楽しみにしていた洞窟へ。3分毎に真っ暗になり、30秒ほどの動画のプレゼンが始まり、再現された壁面の絵画が浮かび上がってくる（図4）。

当時の現生人類はどのような生活をしていたのだ



図5

ろうか。やや寒い気候の中で、協力して狩りを行い（図5）、洞穴の中で火を使って肉を料理していたのかもしない（図6）。先史時代（Prehistory）とは、歴史（有史）時代以前の区分で、文字を使用する前の人類の歴史を表す。

ホモ・サピエンスの特徴を図7に示した。アルタミラ洞窟の意義とは何だろうか？絵画の存在は、歴史的に当時の状況を、医学的にヒトの意思伝達を、芸術的に感性を、人類学的・社会的にメッセージを伝えるという行為を、推測し研究を発展させていく上で、重要なものといえよう。

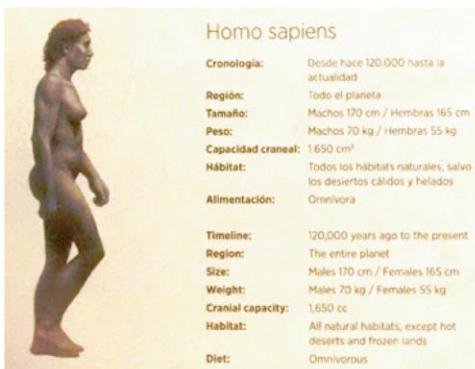


図7

回顧の藝術

スペインの芸術や音楽といえば、あまりにも有名なフラメンコ（flamenco）が挙げられる。そもそも、スペイン南部のアンダルシア地方に伝わる芸能だ。つまり民衆の心情が表現されたもので、構成要素は、歌、踊り、ギターという3つが主になる。



図9

フランコギターの演奏者・トケ（Toque）は、指先でギターを叩いてリズムを出すこと。その横には、男性の歌い手・カンタオール（cantaor）がほぼ1時間

歌い続ける。舞台で踊る女性の踊り手・バイラオーラ（bailaora）におけるキレがある動きには、驚嘆することに。関節を痛めないだらうかと心配するほどだった。

もう一つ、地元で人気があるスポットは、コラル・モレリア（Corral de la Moreria）。ここで演出はバラエティに富んでいた。女性の歌い手・カンタオーラ（cantaora）が情感を込めて歌うと、歌詞はわからないが、日本の演歌と共に通するのであろうか、何となく、愛や恋、失恋などの情景が伝わってくるようだ（図11）。

しばしば、フラメンコと

踊りだけば注目されているが、そうではない。歌・カンテ（Cante）がとても重要な割合を占める。魂の奥底から響く深い声（カンテ・ホンド）を聴くと、心が振るわれるわざっているような気持ちに。これもフラメンコの魅力であり、真髓といえよう。

今回、洞窟の壁画という芸術の起源に触れた。牛がポイントかもしれない、現在まで闘牛やフラメンコという形で歴史が連綿と繋がってきているようだ。

（板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト）

音楽や音楽療法に関わっている私は、同国における音楽や芸能を知りたいため、数ヵ所のスポットを訪れてみることに。

マドリッドで最も知られる店の一つ、ヴィラ・ロザは秀逸だった（図8）。デイナーを楽しみながら、フランコのパフォーマンスを堪能できる。

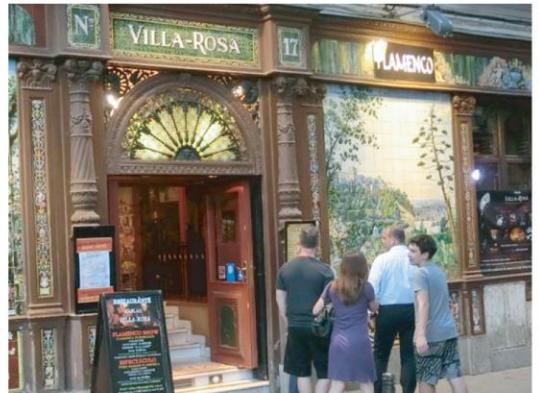


図8



図10



図11